

旧安田庭園内の両国公会堂跡地に新刀剣博物館は建設される



公益財団法人日本美術刀剣保存協会(渋谷区代々木四一五二〇〇三三三七九一三八六)では、昭和四十三年に開館した刀剣博物館の老朽化に対処するため、現在地での建て替えや他への移転について種々検討を重ねてきたが、このほど旧安田庭園内の両国公会堂(墨田区横網一二二一〇)跡地に新築し、移転することが決まった。

旧安田庭園は、常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資が元禄年間(一六八八〜一七〇三)に築造したと伝えられる。隅田川の水を引く潮入回遊式庭園として整備され、明治維新後は旧備前岡山藩主池田章政の邸となり、次いで安

# 「刀剣博物館」両国公会堂跡地へ新築移転 墨田区が日刀保を事業候補者に決定、開館は四年後

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2014.11.15 VOL.20

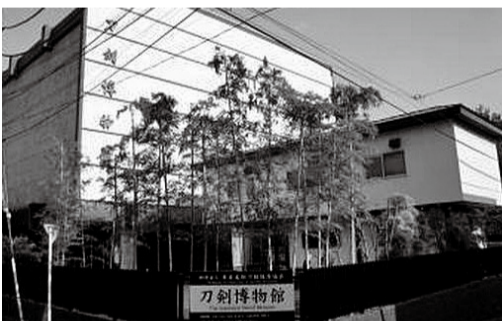
発行人 深海 信彦  
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会  
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
 新宿スカイプラザ1302  
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
<http://www.zentosho.com/>

第20号編集担当  
 赤荻 稔 朝倉 忠史 飯田 慶雄 伊波 賢一  
 大西 芳生 大平 将広 川島 貴敏 嶋田 伸夫  
 清水 儀孝 生野 正 新堀 賀将 土子 民夫  
 網取 謙一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦  
 松本 義行 冥賀 吉也 服部 持田 具宏

田財閥創立者・安田善次郎(一八三八〜一九二二)の所有となつた。大正十一年(一九二二)東京市に寄付され、戦後に東京都から墨田区に移管された。当庭園はJR両国駅から徒歩近く、入園は無料で公開され、四季折々の変化が多くの都民に親しまれている。

安田の寄付は日比谷公会堂や東大安田講堂が知られるが、両国公会堂も没後の大正十五年、その遺志により東京都への寄付として建設費が賄われた。設計者は東京駅舎を手がけた辰野金吾に学び、台湾で多くの官庁建築に携わった森山松之助。円形のドーム屋根の公会堂は、地域のランドマーク的存在として、また大正から昭和初期にかけての歴史的遺構として関係者に保存が望まれていた。

公会堂を管理する墨田区では、建物の老朽化により平成十三年四月から休館し、この間、施設を再生利用する民間事業者



老朽化と耐震性が懸念される現在の刀剣博物館

活用事業候補者に決定した。日刀保の提案によると、「観光まち歩き拠点」や「両国地区の景観づくり」に寄与することにも、「一階フロアを誰もが自由に出入りできる場所とし、地域情報コーナーやカフェを設置するなど、地域貢献も積極的に果たしていくとしている。今後、墨田区と日刀保は事業の具体化に向けた協議を進め、来年度には建物の解体に着工、四年後の新刀剣博物館開館を目指す。

東京スカイツリーの開業以来何かと話題の多い墨田区だが、郵政博物館に続いて、たばこ塩の博物館、すみだ北斎美術館の開館も相次いで予定されている。東京オリンピック・パラリンピックの開催前に、両国技館・江戸東京博物館に隣接して刀剣博物館がオープンすると、日本刀があらためて世界から注目されるのが確実視される。期待して見守りたい。

を公募してきたが、決定に至らなかった。そこで区は、施設を現状のままにしておくことは、安全面や地域活性化の観点から問題があるとし、施設を解体し、民間事業者を主体に「文化観光機能を念頭に置いた魅力ある公園施設を新たに設置することとした。

このような中、日刀保から刀剣博物館を移転設置する提案があり、選定委員会の審査等を経て、日刀保が両国公会堂跡地の

本年の「大刀剣市」は十一月一日(土)〜三日(月・祝)、新橋の東京美術倶楽部で開催された。出店した組合員は、北は北海道から南は九州熊本までの七十四店舗。三階と四階の会場には所狭しと、多くの名品・優品・珍品が展示された。

三階重文室ではNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にちなんで「黒田官兵衛とその時代の刀工達」と題して関連作品を展示、

来場者には人気を博した。四階では、来場者が毎回楽しみにしている現代刀匠による銘切り実演が行われた。また、同じ四階の特設会場では「我が家のお宝鑑定」が連日開催され、自慢のお宝を持参するお客さまの行列が絶えなかった。

大刀剣市の開催に際しましては、皆さまの多大なるご支援を感謝します。詳細は次号の「刀剣界」でご紹介します。

## 「大刀剣市2014」 を主催 74店舗が参加

刀剣・書画・骨董

### 和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
 TEL 0258-33-8510  
 FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

### やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」  
 年間10回位発行予定  
 購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10  
 TEL 042-463-5310  
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

### 柳匠堂

### 柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八  
 TEL 〇八六一二二二二二二二二二二二九  
 工房 岡山市北区磨屋町七二二二  
 TEL 〇八六一二二二二二二二二二二二九  
 FAX 〇八六一二二二二二二二二二二二九

刀剣古美術

### 三峯美術店

### 町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二  
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
 TEL 〇四九四一三三三〇六七  
 FAX 〇四九四一三三三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の  
 売買、加工及び御相談承ります

### 大阪刀剣会

### 吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七七一  
 TEL 〇六一六六三二二二二二二二二〇  
 FAX 〇六一六六四四一五四六四

# 初の「大刀剣市」出店者説明会開く

十月二十三日、全国刀剣商業協同組合の交換会後に「大刀剣市」出店者顔合わせ説明会が行われた。大刀剣市開催前の顔合わせ説明会は、かねてより開催すべきだという声があったが、二十六回目にしてようやく実現に至った。



出店者の多くが参集したが…

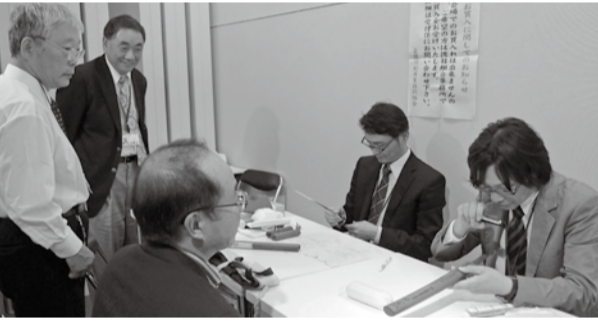
最初に深海理事長が挨拶に立ち、「大刀剣市は組合の主要な

## 組合こよみ (平成26年5月～10月)

- 5月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第17号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・松本義行氏・土子氏
- 7日 銀座長州屋にて『刀剣界』第17号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・網取理事・土子氏
- 12日 土肥富康氏(株和敬堂)・吉野敏史氏(明倫産業株)が入会(4月17日の理事会にて承認)
- 17日 東京美術倶楽部にて第27回通常総会を開催。出席74名
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高15,994,200円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・飯田慶雄氏・大平将広氏・新堀賀将氏・松本氏・土子氏
- 17日 長弘道氏・榊勝弘氏(逝去)が退会(総会にて承認)
- 6月12日 『全刀商』第23号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・朝倉忠史氏・飯田氏・大西芳生氏・新堀氏・土肥富康氏・松本氏・土子氏
- 13日 深海理事長・清水専務理事・服部常務理事が警察庁生活安全課を訪問、武田課長・井係長・原田課長と面談
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高13,468,150円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・井係長・原田課長と面談
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・新堀氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 24日 銀座長州屋にて『全刀商』第23号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・生野理事・網取理事・土子氏
- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・新堀氏・土肥氏・土子氏
- 4日 『全刀商』第23号入荷
- 7日 銀座長州屋にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・土子氏
- 14日 清水専務理事・服部常務理事が産経新聞社を訪問し、「大刀剣市」の後援を依頼
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高13,068,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の第1回集荷受付
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・持田理事・大西氏・大平氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 18日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第1回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 24日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の第2回集荷受付
- 25日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第2回撮影。担当者、持田理事・松本氏
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」カタログ掲載商品の第3回集荷受付
- 4日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第3回撮影。担当者、高橋正法氏・服部一隆氏
- 5日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第4回撮影。担当者、生野理事・瀬下昌彦氏
- 8日 真津仁彰氏(御刀研真澄庵)が賛助会員に入会
- 8日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催。出席者、眞賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加48名、出来高11,811,500円
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第19号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・持田理事・大西氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 28日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催(初校)。出席者、眞賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・大平氏・齋藤隆久氏・眞賀亮典氏・土子氏
- 9月2日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催(再校)。出席者、清水専務理事・服部常務理事・生野理事・網取理事・持田理事・高橋氏・土子氏
- 5日 組合事務所にて清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事が「大刀剣市」広告の件で産経新聞社と打ち合わせ
- 8日 組合事務所にて伊波常務理事が「大刀剣市」広告の件でアオハ企画と打ち合わせ
- 12日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログの最終校正。出席者、清水専務理事・服部常務理事・持田理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加50名、出来高19,724,750円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・田澤数馬氏・土肥氏・土子氏
- 29日 「大刀剣市」カタログ入荷
- 10月1日 銀座刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」出店者顔合わせ説明会開催について打ち合わせ。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事
- 1日 銀座刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」英文解説の校正。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・土子氏
- 14日 新宿警察署古物商講習会に事務局より参加
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高23,087,500円
- 23日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」出店者顔合わせ説明会を開催
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・眞賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・松本氏・土子氏
- 30日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・飯田氏・大平氏・服部一隆氏・松本氏・土子氏

事業ではあるが、この事業では組合が利益を得るのではなく、事業を利用して組合員自身が利益を得るのが目的です。従って、組合は出店料金の範囲内で設備・広告などに最大限の努力をしています。皆さま方もこの事業を利用して大いに成果を上げてください」と話されたが、実行委員の努力が売上に結びついてもらいたいものだ。

その後、清水専務理事(実行委員長)から出店案内が説明され、続いて生野理事により本日の出欠確認が行われた。この説明会も大刀剣市の一環であり、出席することは責務なのだが、無断欠席者が七名もいたのは残念だった。同じように、前日の搬入・飾り付けや開催の当日、都合が悪いと言って無断欠席するものもあり得るのだろうか。しっかり考えていただきたいものである。



お宝の鑑定に当たる筆者らスタッフ

次に眞賀副理事長から、搬入・搬出に関する説明があった。これは時間順守の件が中心だったが、ユーモアを交えてポイントが提示された。続いて嶋田理事からは出店ブースについて、服部常務理事からはその他の注意事項の説明があり、損害保険については日本興亜損保の社員が解説した。保険は仕組みが難しいためもあるが、いまひとつ理解ができなかった。

伊波常務理事からは、広告宣伝の状況の報告が行われた。質疑に移り、大平将広氏から電源取りについて、高島吉童氏からカード決済について質問があったが、いずれも各担当委員が的確に回答していた。

最後に猿田副理事長が閉会の辞を述べ、「しっかりとやっていこう」と締め、初めての顔合わせ説明会は滞りなく終了した。(持田員志)

## ■全刀商の活動 大刀剣市「我が家のお宝鑑定」

「大刀剣市」のイベントの中ではずっかりおなじみで人気のコーナー「我が家のお宝鑑定」。ここは理事が担当する鑑定の当番だけ成り立っているわけではない。コーナー内で作業を助けてくれる人、お宝をお持ちになり順番を待っているお客さまを案内する人などがいて成り立っている。

「大刀剣市」のイベントの中ではずっかりおなじみで人気のコーナー「我が家のお宝鑑定」。ここは理事が担当する鑑定の当番だけ成り立っているわけではない。コーナー内で作業を助けてくれる人、お宝をお持ちになり順番を待っているお客さまを案内する人などがいて成り立っている。

古銭 切手・刀剣 売買 評価 鑑定  
**株城南堂古美術店**  
 代表  
**田中 勝憲**  
 〒153-10051  
 東京都目黒区上目黒四-3-110  
 TEL 03-371-0167  
 03-371-0167  
 FAX 03-371-0167



# 風向計

其之十五

深海 信彦

『日本経済新聞』が去る十月二十四日まで公表された各種経済指標の情報を織り込んで景気の動向を予測したところでは今年度の実質成長率は〇・二%、来年は二・二%の見通しであるという。

直近の実質GDP(国内総生産)と個人消費は前期比微増にとどまった見込みであるが、依然として経済の回復基調は続いており、十月以降も設備投資は堅調に推移し、消費の持ち直しも続き、緩やかな成長基調は維持されるという。また、アメリカを中心とする海外経済も緩やかに加速していくことが見込まれ、六、七年ぶりの円安も手伝って日本の輸出の足取りも徐々にしっかりと見ていく見込みである。

一方、消費の動きは二進一退で

あるが、大手小売業の月別売上高などを見るに、夏以降改善の兆しが見られ、雇用環境の安定を背景に個人消費も回復傾向にあり、実質消費は今年が前年比二・五%減であるのに対し、来年は二・二%増と予測している。このような予測を裏付けるように日経平均株価は底堅く推移しており、数値の上では当面の経済不安は払拭されると言える。

しかし、毎日の新聞などの報道は決して予断を許さない記事も多く、ましてや週刊誌などの見出し記事を見れば、今にもアベノミクスが終焉の時を迎えそうな内容も見られ、事業を行っている者にとっては、日経新聞の先行き予測通りに平穩に推移していくことを願うばかりであろう。

さて、そのような状況の中でわが業界の最近はいかがなものであろうか、眺めてみよう。

業界にとって最大の関心事は刀剣等の相場であり、その相場の決め手となるのが、重文・重美を除いては公益財団法人日本美術刀剣保存協会(以下、協会)の発行する保存刀剣等の鑑定書と重要刀剣等の指定書であることは、功罪を別として誰もが認めるところであり、繰り返し述べているところでもある。

今年度の重要刀剣の合否の発表が十月に行われた。刀剣は申請数六八〇点に対して合格二七五点であった。この合格総数二七八点は、直近の平成二十年が三五五点、二十一年二五七点、二十二年八八八点、二十五年五七五点、二十四年九〇〇点、二十五年二二二点と比較かなりの増加であり、殊に協会が指定数を絞った平成二十二年

二十三・二十四年の三年間とは比べものにならない数字である。

本欄では、需要と供給に需給ギャップという言葉があると同時に、重要刀剣等の指定数と価格相場に、相対的ギャップという言葉を用いてはめることができると述べたが、最近の交換会などでの取引相場を見るに、景気の回復傾向と比例するように重要刀剣等の相場も上昇気運を見せ、総体的に四年前の底値からは二〇%以上、ものによってはそれ以上の持ち直しを見せている。平成二十二年に入り、政権交代の効果が始まった時期に、くしくもこの年以降三年間に指定総数が合計三四三三点にとどまり、まさに指定数と相場との相対的ギャップは縮小しているが、今年の指定総数一七八点は当面その傾向に変わりがないことを示す数字である。

また、正宗の作品の中では刃文がおとなしめで、切先がやや延び、身幅が広く、重ねが薄いと

の十年間、つまり平成十年から十九年度までの重要指定数は二五六三点、年平均二五五・三三三点、今年の二七八点はその十年間の平均の七〇%に満たない数字であり、来年以降も同様の数字が続いたとしても現在の相対的ギャップに変わりはない。景気の動向に特段の変化がない限り、重要刀剣等の取引相場は維持されるものと予測される。

重要刀剣の取引価格が目安となつて特別保存等の刀剣・刀装小道具の相場が成り立っている現状からすれば、ここ数年間の重要刀剣等の指定総数の数字は、生産調整や出荷調整のように協会が意図的に行ったことではないにもかかわらず、見事に業界景気、ひいては取引相場に比例した絶妙な配当であったと言えよう。このように相対的ギャップと業界景気の動向が噛み合っている時こそ刀剣業者にとっては

て食い違い、二重刃状に交差する句口の形状が完全に一致する。周知の通り、刀剣の刃文には一つとして同じものはないため、この一致をもって本品は名物帳に「島津正宗 磨上 長二尺二寸七分 代金二百枚」と記載された名物刀剣であると考えられる。

商機であり、愛好家にとっても安心して購入できる機会である。繰り返して述べるように、協会の充実・安定と刀剣商組合・刀剣業界の安定とは刀界発展の必須の条件であり、そのための努力を惜しんではいられない。

この十月は協会移転が発表される慶事もあり、業界は「大刀剣市」を迎えた。大刀剣という職業の地位向上を大きな目的の一つに掲げて刀剣商組合は船出した。今を好機として業界の充実を図り、刀剣商をよりメジャーな職業にしていくためにも、「大刀剣市」の三日間は殊に大切である。出店する業者もいない業者も、今の時期を逃してはならない。

日経新聞の経済見通しを信頼できるものとするならば、年末年始に向かって業界もさらなる上昇気運が見込まれるかもしれない。今、業界が一丸となれるかの正念場を迎えている。

## 特別寄稿

# 百五十年ぶりに姿を現した「名物島津正宗」

京都国立博物館 学芸部 研究員 末兼 俊彦

今年の刀剣界における二大ニュースの一つが、先日発表された本阿彌道弘氏の重要無形文化財保持者認定であり、もう一つが、はばかりながらわが京都国立博物館に寄贈された「名物島津正宗」の再発見であると思ふ。

長寸の正宗が再発見されるということがいかに希有な出来事なのかは、あらためて説明するまでもない。そして、刀剣に少しでも興味のある方なら、今回の発表を受けて、一に「正宗の作か否か」、二に「本場に『享保名物帳』所載の作品か否か」の二点に関心を持たれるのが当然のことである。

「正宗様式に完全に合致する」と答えることができる。本品は国宝の「刀 金象嵌銘 本多中務所持 正宗 本阿(花押)」「名物中務正宗・文化庁所蔵」と比べてもより一層地景の入った働き豊富で精美な地鉄に、きわめて微細な沸が厚くつき、元から先に向かつて豪放な刃文が焼かれている。

また、正宗の作品の中では刃文がおとなしめで、切先がやや延び、身幅が広く、重ねが薄いと

さて、われわれ独立行政法人国立文化財機構に属する国立博物館は、仮にも国立を名乗る機関であるから、文化財の寄贈においてもその内容を広く一般に公開し、作品に対する適切な評価額を示す必要がある。特に今回は大変貴重な作品であるため、その算定には慎重な調査と長時間にわたる協議が行われた。

当然のことながら、意見を求められた委員や有識者の先生方も第一



刀 無銘名物島津正宗 奥田米佛門氏寄贈 京都国立博物館蔵

刀剣・小道具・甲冑武具  
目白 飯田高遠堂  
代表取締役 飯田 慶久  
〒161-0033  
東京都新宿区下落合3-17-33  
TEL 03-3951-3312  
FAX 03-3951-3615  
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本  
松本 富夫 義行  
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1  
TEL 04-7122-1122  
FAX 04-7122-1950  
[www.touken-matsumoto.jp](http://www.touken-matsumoto.jp)

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑  
日本の伝統文化を彩る  
JAPAN SWORD CO., LTD.  
(株)日本刀剣  
伊波賢一 Ken-ichi Inami  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1  
TEL 03-3434-4321  
FAX 03-3434-4324

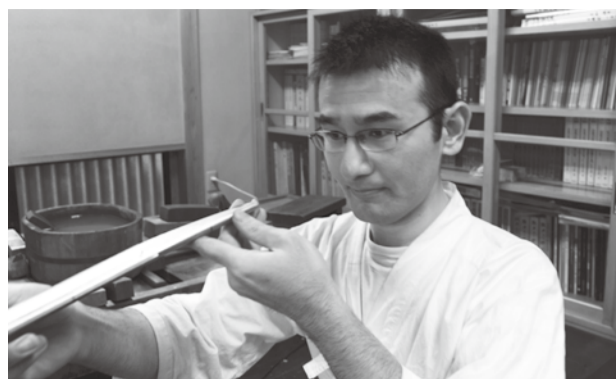
銀座 泰文堂  
〒104-0061 東京都中央区銀座 4-3-11  
松崎煎餅ビル 4階  
(株)銀座泰文堂 代表 川島 貴敏  
TEL 03-3563-2551  
FAX 03-3563-2553  
フリーダイヤル 0120-402037  
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉  
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
連絡先 090-8845-2222  
代表者 高島 吉童  
東京都北区滝野川 7-16-6  
TEL 03-5394-1118  
FAX 03-5394-1116  
[www.premi.co.jp](http://www.premi.co.jp)

# 刀 剣 界

## 若者広場 17 「鐵」に魅せられて

上山陽三(刀匠)



刀身の成形作業に当たる上山刀匠

九年前、静岡県三島市の佐野美術館で「宮入一門展」が開催されており、そこで師匠(宮入小左衛門行平)の刀を見たことが入門のきっかけとなりました。翌年、勤めていた会社を辞め、その春に師匠の門を叩きました。

初めはアポなしの訪問であったためか断られました。後日手紙を書いて出直し、連日入門することができました。今そのときのことを思い返すと、何だか恥ずかしくなりますが、当時は真剣だったのだと思います。

修業中は炭切りばかりではなく、早い段階からいろいろな仕事をさせていただきましたので、一通り刀が作れるようになるのに、それほど時間はかかりませんでした。しかし、そうは言っても、作品になるようにするには、それから長い年月が必要でした。

最近、ようやく作品が作れるようになったのですが、まだまだ課題は山積です。まずは、それらを一つずつ着実に克服していきたいと思っています。

私が作品を作る上で大切にしていることは、小さな欠点にはこだわらずに、大きな魅力のある作品にすることです。相州伝の場合は特に、小さな欠点を気にしすぎると、全体として魅力に欠ける作品になりやすいので、失敗を恐れずに覇気のある作品となるように心がけております。

とはいえ、まだまだ駆け出しですからわからないことが多く、他の職方さんのご協力を得ながら何とか作品にしているのが現状です。

現在も住み込みで師匠の仕事場をお借りしており、大変ありがたくなっていきます。いつの日にか見てくださる方の視線に触れるような作品を作ることが目標に、日々黙々と作りしています。

■一筆啓上  
上山陽三(刀工銘:輝平)さんは、昭和五十六年北海道の生まれ。平成十一年に埼玉県にて就職。同十七年に宮入小左衛門行平刀匠に入門。日本男児として当然に刀剣が好きで、正宗に寄せる憧れは、宮入師匠への縁につながりました。現代鍛冶の素晴らしさを知り、自ら作刀の道を選んだそうです。

公益財団法人日本刀文化振興協会主催の第四回「新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会」で金賞第三席・新人賞を受賞。そして本年の第五回展覧会では金賞第一席、また全日本刀匠会主催の本年度「お守り刀展覧会」は新人賞を受賞し、その感性と才能は一気に開花しています。

情報量の多い近年、いったん社会経験をした後、刀職に就く方も多いようです。さまざま経験は、これからの長い作刀人生にきつと役に立つことなのでしょう。問題意識もしっかりし、師匠や優秀な兄弟子たちに見守られ、黙々と仕事をこなす日々。ますますの活躍を期待しています。(伊波賢一)

日本とスイスの国交樹立百五十年となる本年、世界三大ジャズ・フェスティバルの一つに数えられるモントルー・ジャズ・フェスティバルにて、記念イベント「ジャパン・デイ」が開催された。毎年約二十五万人が訪れるこのイベントの会場で、真剣による演武が披露され、世界の注目を集めたことをご存じであろうか。

当日は現代のジャズ・シーンを代表し、世界を舞台に活躍するピアニストの上原ひろみや、ギターリストの布袋寅泰をはじめ、日本を代表するトップ・ジャズミュージ

シヤンらによる生演奏が行われた。これを記念し、公式前夜祭パーティー「Bonding Party in Montreux Jazz Festival 2014」が開催され、剣士の黒澤雄太さんがイベントの成功と両国のさらなる友好を祈って真剣での演武を披露されたのである。

現在、日本武徳院試斬居合道にて師範を務める黒澤さん。最近では、別冊宝島『日本の武器と武芸』に掲載された特別インタビュー「日本刀で何を『斬る』のか」をご覧になった方も多かったろう。

「剣禅一如」の言葉が表す通り、武道と禅の合一を極めんとし、さらには佐野美術館館長・渡邊妙子先生に師事し、日本刀の鑑定学を

修業する氏の求道の姿勢は深く本質を突いている。

記事では、真剣との出会いや武道への覚醒、現代における「斬る」ことの意味、小手先技ではなく本質を見極めることの重要性などが語られている。

黒澤雄太さんは昭和四十三年神奈川県横浜市生まれ。六歳から剣の道を志し、平成十年、三十歳で自身の道場「日本武徳院試斬居合道」を創立する。流派を名乗らず、連盟などの組織にも加盟せず、型、試斬、それらを貫く心の鍛錬を軸に据えた「試斬居合道」を提唱する。

現在、横浜と東京に開く道場には十代から六十代の幅広い男女が通う。また、道場の活動だけににとどまらず、公開の演



モントルーで「十方戒いの儀式」を披露する黒澤さん

武や講演などにも力を入れている。演武による国際交流には、多くの実績がある。パリのカルティエ現代美術財団、ポンピドゥーセンターなどフランスでの演武をはじめ、インドのチグプールではインド仏教指導者・佐々井秀嶺師の建立した龍樹菩薩大寺に日本刀を奉納し、落慶記念奉納演武を行った。著書に『真剣(光文社新書)』がある。

内外で日本刀文化の啓蒙普及に努める黒澤雄太さんのますますの活躍に、今後も注目していきたい。(飯田慶雄)

■ホームページ＝<http://www.butokuin.com/index.html>  
☎〇四五六二一七四六六(留守電にて対応)

話題の 剣人 No.001

### 世界で活躍する剣士

日本武徳院 試斬居合道 師範 黒澤雄太さん

3 宇和島市立伊達資料館

### 遙かなる宇和島

宇和島市立伊達資料館を訪れ、「天下の伊達」武將のモードと文化(九月六日〜十月十三日)を見学した。

昭和四十九年開館の同館は、伊達政宗の長男秀宗に始まる宇和島伊達家伝来の品々を中心に、意欲的な企画展示を行っている。今回は開館四十周年記念の特別展で、織田信長、豊臣秀吉、政宗ら戦国武將の肖像画を展示し、その伊達なる衣装と美意識に迫る意義ある企画。

何と言っても目玉は、狩野永徳筆の織田信長像(大徳寺蔵)。信長三回忌に合わせて描かれたこの肖像画は、二〇〇八〜〇九年の京都国立博物館による調査で、完成後に描き直されていた事実が判明した。現存の信長像は薄青色の小袖と小ぶりの家紋、小刀を指した上品でおとなしい印象。だが調査で画像の裏側に浮かび上がったのは、大きな桐紋紋らしの茶と緑の二色身変わり小袖を着した斬新な衣装の姿。しかも長い腰刀を指し、口ひげの両端はびんと跳ね上がり、表情もなかなか覇気に満ちている。そんなダンディーな信長像をわざわざ地味な姿にしたのは、どうやら秀吉らしい。「今の天下様は信長様ではない! このわし、秀吉じゃ!!」心の叫びが聞こえてくるようだ。

高台寺蔵の豊臣秀吉像(慶長三年筆。南化玄興賛)と伊達資料館蔵の豊臣秀吉像(慶長四年筆。西笑承兌賛)がともよく似ており、同一の絵師(狩野派)の作と推考されるといふ。これも肖像画製作の経緯や絵師の活動を考える

上で実に面白いと思った。

そして、伊達政宗所用と伝える金茶色系威の五枚胴具足。その背後を飾る屏風は狩野興甫筆で、一の谷と屋島の合戦の場面を描いている。世継ぎの元服の際に飾られた特別の屏風らしい。熊合の声に振り返った敦盛や潔い最期を遂げんとする平忠衡の姿を見て思い出した。以前、拙文「装剣金具に描かれた源平合戦」(『義経とその時代』山川出版社)執筆中、参考にした屏風絵の一つがこれなのだ。懐かしい気持ちになった。

同館は、ほかに時絵の道具や茶器などを数多く蔵している。保存



宇和島市立伊達資料館。かつては藩主館があった。隣接する隠天救園に七代藩主伊達宗紀の天寿居。彼は100歳の天寿を全

■宇和島市立伊達博物館 11月7日(土) 9時〜16時  
〒798-0061 愛媛県宇和島市御殿町九四 〇八九五二二七七七六 休館日は毎週月曜日、年末年始。月曜日が国民の祝日の場合は翌火曜日。  
<http://city.uwajima.ehime.jp/datehaku/>

状態が優れ、史料的な価値も高い。戦時中に焼けた蔵の中にもっと大切な資料があったらいいが、それでもこうしてかなりの数の蔵品が伝来したことは幸運というほかない。

平成二十七年は秀宗公入国四百年記念の年。伊達なる企画に期待しよう。

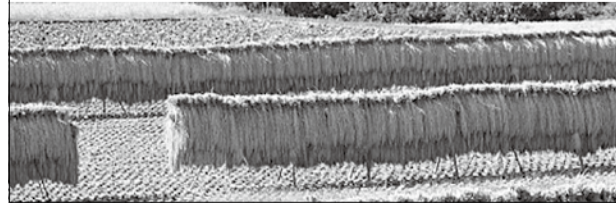
宇和島は藤堂高虎が築いた名城を望む古風な城下町で、作家の司馬遼太郎や吉村昭も何度も訪れている。小冊子「宇和島城下ぶらり」(宇和島歴史文化の結い人製作)を片手に散策(そして鯛めし)して、こ天を肴に一杯やればやっぱり、来てよかった」となるであろう。

末尾になったが、同館学芸員の志後野迫希世さんの丁寧で親切な解説で充実した見学ができたことに、深く感謝したい。

刀剣界に幸福が来る

山本 一郎(刀友会・青森県三沢市)

毎年、夏痩せしないうちに秋が来る。収穫の秋、食べ物と酒のおいしさは格別だ。悲しいときも、楽しいときも、おなかだけはすいてくる。食べ物と酒を口にしたとき、おいしいと感じてしまう不謹慎な私の舌。収穫は、年に一度の神様からの贈り物だ。無事に収穫の季節を迎えられれば最高だが、自然に左右され、いつもいい結果に終わるとは限らない。天高く、人肥える秋だ。初物は笑って食べよう。幸福がやってくるはずだ。



ブック・レビュー BOOK REVIEW

「教科書」は日本刀を堅苦しい学びから解放してくれる

『日本刀の教科書』 渡邊妙子・住麻紀 共著  
定価(三二〇〇円+税) 東京堂出版

刀剣商になりたてのころ、指導を受けた先輩から日本刀を学ぶには最良と薦められた本がありました。しかし、その文章は特殊な言葉が並び、まるで外国語のようでした。その後、現在までに数多くの日本刀関連書籍を揃え、日々勉強にそれらを活用してい



ますが、今では一般的に使われな表現に難しさを感じてしまうのは私だけではないでしょう。昭和の日本刀ブームから久しい時が過ぎ、当時の愛刀家たちが高齢化する一方、昨今インターネットで知りたい情報を容易に得てネットオークションで日本刀を購入する世代の愛刀家が増えていま

戦場のオシヤレは命懸け

『変り兜―戦国のCOOL DESIGN―』 橋本麻里 著 一七二八円(定価) 新潮社

「和をもって尊しとなす」日本の歴史において、戦国時代、甲冑は異様な進化を遂げた。

フサフサの毛虫を模した「七十二間筋兜」、頭の上にニョッキリ腕が生えたような「金剛杵形兜鉢」…戦場のよ



うな緊迫した場で、こんなオモシロセンスを発揮して大丈夫?

「変り兜―戦国のCOOL DESIGN―」は、戦国の武将たちが競い合うように作らせた「変り兜」六十点を一挙公開している。どう見ても実用性からかけ離れたデザインのように見えるが、戦場という場での心理的効果も考えた、立派な実用品なのだ。

なることでしょう。

基礎知識から手入れ、鑑賞、鑑定までのすべてを、豊富な刀剣の写真に各部の特徴がわかる描き下ろしの図版、また写真・押形約五十点、図版約七十点でビジュアル化し、とても興味をそえられる書籍になっています。

渡邊妙子氏が、佐野美術館館長として長年にわたり日本刀講座を開講し、初級から上級者まで多くの愛刀家に教えたことをまとめた一冊。一般の人でも楽しんで勉強できる内容ですが、レベルは決して低くはありません。刀剣コレクター、刀剣商にとっても必携の日本刀ブームを起すに必要なた望の書であるかもしれませ

ながらユニークさを重視したセレクトで紹介している。

全図版に橋本さんが付した解説とキャッチは、秀逸の一言。ウサミミ、植毛、草食系など、思いもよらなかった視点で兜を見ること

「戦国時代」の合戦のリアルな真実とは? ワビ、サビ、イキだけでない、日本美。有無を言わせぬ造形の強さを、肩肘張らずに楽しめる一冊である。

橋本麻里さんは明治学院大学非常勤講師(日本美術史)。「芸術新潮」「BRUTUS」などの雑誌記事のほか、高校美術教科書の編集・執筆も手がける。著書に『日本の国宝100』『ニッポンの老舗デザイン』共著に『浮世絵入門―恋する春画―』『運慶―リアルを超えた天才仏師―』がある。

ふるさと自慢 第11回 ●長野県長野市 ご利益も篤い善光寺の御開帳詣で 朝倉 忠史

長野の自慢は、何と言っても北アルプスの名水を使って打つ信州蕎麦。素朴ながらその風味、腰のある歯応えと喉越し。いつ食べても美味しい。

と、わが長野の自慢である蕎麦の収穫量は間違いなく日本一!と思つたら、何と長野は全国二四位の間を行ったり来たり。蕎麦粉の収穫量一位は北海道で、長野の五倍以上! それならば、蕎麦屋の店舗数は日本一でしょ!と思いきや、これまたがっかりの全国第四位。ん? 何とも微妙。しかし、蕎麦粉消費量はやっぱり長野が断トツの全国一位。

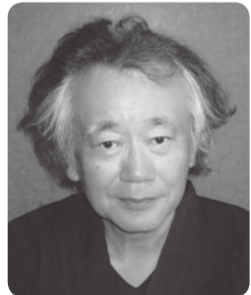
さて今回のふるさと自慢は、そんな信州蕎麦ではなく、門前町にある長野の自慢はもちろん「善光寺」です。また今回ご案内する理由は、善光寺が単に門前町の象徴というだけではありません。来年の四月五日から五月三十一日までの期間、七年に一度の善光寺御開帳が開催されます。



多くの参拝者を迎える善光寺山門 (重要文化財)

善光寺の創建は皇極天皇三年(六四四)で、現在国宝に指定されている本堂は、元禄十三年(一七〇〇)の火災で焼失したため、七年の歳月をかけて宝永四年(一七〇七)に再建されたもの。

刀職紹介 第16回 川島 貴敏



〔研師〕高岩節夫さん 昭和二十二年生まれの六十七歳。島根県の生まれです。

お父様の幸吉さんも研師で、その跡を継ぎ研師となる志を抱いた節夫さんは、人間国宝であった藤代松雄先生に昭和三十八年に入門。修業中から刀剣研磨・外装技術発表会に出品し、優秀賞や特賞を受賞されるなど優秀な成績を納め、昭和五十年に独立。五十五年には三十三歳の若さで無鑑査認定を受けました。

その後も活躍を続け、平成十八年には吉原義人刀匠らと共に著「The Art of Japanese Sword Polishing」を出版されています。平成十二年には、葛飾区指定無形文化財保持者に認定され、過去二年の期間中には六百二十八万人もの参拝者が善光寺を訪れました。

普段は年間およそ五百〜六百万人の参拝者が訪れると言われておりますが、このわずかに二月の御開帳期間だけで年間の参拝者数を超えてしまいます。

一説には、参道界隈の商店によつては、この期間中だけで例年の二分もの商売をするお店があると聞きます。これも御本尊の身代わり、前立本尊のご利益でしょうか?

回にわたって、伊勢神宮の式年遷宮の際に納められた御神宝の直刀や鉾を研磨しています。

高岩さんが研磨する上で日ごろ心がけていることは「刀の特徴を生かし、より美しく研ぎ上げること」です。工作代金は、刀身の状態により異なりますので、ご相談ください。



〔研師〕平井隆守さん 研師の平井隆守さんは、昭和四十八年生まれの一歳。

研師になったきっかけは、会社勤めをされていたときに通っていた居合教室。その先生が加藤万豊先生(永山美術刀剣研磨研修所卒)で、加藤先生の下で居合を習ううちに刀剣の研磨に興味を持ち、平成十二年に会社を辞めて入門されました。

同十四年から刀剣研磨・外装技術発表会に出品、二十二年・二十四年には優秀賞を受賞されるなど活躍中です。

平井さんが日ごろ心がけているのは「丁寧で品のある研磨をすること」です。

工作料金は、刀の状態により異なりますが、基本的には一寸八千円から二万円ぐらいで受けておられます。

連絡先 〒501-3977 岐阜県関市清水町四三 ☎0575-250928

# 刀 劍 界

## モスクワにて初の古式鍛錬実演

日本文化に親しみをもち、その日本文化を代表する日本刀を身近に感じていただけるようにとの趣旨で、日本美術刀剣保存協会ロシア支部を中心とする数団体により、十月十五〜十八日の四日間、モスクワ市内のプレスニャ・クラスナヤ公園にて日本刀の古式鍛錬実演会が開催されました。

昨年、安倍首相とプーチン大統領の首脳会談が行われた折、二〇一四年は両国間の武道の年と定まり、本年は日口武道交流年となりました。この度の公開鍛錬も、武道交流年の両国公認事業として開催されたものです。

この度の鍛錬事業は、二年前の日口ロシア支部設立の際に、既に筆者と話し合いがスタートしており、日口武道交流年という追い風が吹き、時が重なり日口両国の記念事業に参加できましたことは、関係各位の多大なるご協力のたまものであり、深く感謝申し上げます。

ロシアの人々に、日本刀がどのような材料と道具類で、また、どのような工程で製作されていくのかを正しく正確に伝えることは、この度の日本文化紹介の大きな意義の一つです。武器としての側面

ばかりでなく、日本人の精神文化を語るには欠かせないものであることも併せて伝えるべく、刀匠四名とともに十三日、モスクワに入りました。

今回ご協力いただいた方々は、工藤将成刀匠(群馬)・田中貞徳刀匠(千葉)・高橋恒蔵刀匠(群馬)・吉田康隆刀匠(山梨)の若手実力派です。ロシアでは初の本格的な古式鍛錬のため、四名の刀匠は鍛錬



焼入れの瞬間を見守るロシアの見学者たち

先手は左から高橋・吉田・田中の各刀匠、横座は工藤刀匠

しかし、日ごろから心身ともに鍛えている若手刀匠は、寒い素振りを少しも見せず鍛錬に打ち込みました。その姿に多くのロシア人見学者は驚いて、「サムライはやはりすごい」と、尊敬のまなざしでエールを送っていました。

特設会場では茶道・居合道・書道などが公開で同時に行われました。また、いつでも食事ができるように、和食とロシア料理がケータリングサービスで準備されており、来場者への配慮も行き届いていました。

実演に慣れているとはいえ、鍛錬の呼吸合わせを出発前に行うほど慎重に準備をし、本番に臨みました。

十五日は開会式後、結界を張った鍛錬場にて火入れ式が執り行われました。鉄を錘で打って火をおこすと、火床に神聖な炎が上がり鍛錬開始です。

出発前、現地の最高気温を七〜十四度くらいと想定していたところ、悪天候となり、わずかに四度の想定外の寒さとなりました。

われわれに対して報道関係から多くの取材依頼があり、今回の日本刀鍛錬に対する話題性の高さがうかがえました。

横座を務めた工藤刀匠が製作工程最後の銘切りを終えたのは、最終日の十八日夜九時過ぎ。これほどの過密なスケジュールの中で、刀匠たちは力を合わせ、二尺五寸の見事な太刀を完成することができました。

翌十九日に一行は帰国の便に搭乗し、二十日無事に戻りました。製作した太刀はこの後、ロシア人刀職者の手により鉤・白鞘・研磨が施され、ロシア武道連盟に寄贈されることになっています。

ロシアの平和を願って製作されたこの度の太刀は、日口両国間の市民組織が活発な文化交流を行ってきた成果です。今後ますますさまざまな分野で民間セクターなどが文化交流を行うことにより、現在の両国間に足りない何かを補ってあげていくのではないかと考えております。

(嶋田伸夫)

### 追悼

## 藤本巖先生(日本甲冑武具研究保存会最高顧問)を偲んで

一般社団法人日本甲冑武具研究保存会会長 永田 仁志

一般社団法人日本甲冑武具研究保存会最高顧問・藤本巖先生の訃報に接し、會員一同大きな光を失い、深い悲しみに包まれています。

当会は昭和三十七年、錚々たる有志により東京・中野の宝仙寺において結成されました。先生は直ちにその趣旨に賛同され、翌三十七年から終身會員になられた創成期のメンバーでした。

初代会長には故赤城宗徳衆議院議員が就かれ、四十二年には社団法人の認可を受けました。平成九年、二代会長の海部俊樹元内閣総理大臣が名誉会長になられた折に、先生は会長に

就任されました。この間、先生は全精力を傾注して運営に当たられ、献身的な努力により會員数は大幅に増え、会は大きく飛躍しました。

昭和六十年、ニューヨークとロサンゼルスでの「米国変わり兜展」、平成三年、今上陛下を名誉総裁に戴いたベルギーでの「ヨーロッパ'89大名展」変わり兜と陣羽織」を執行部の重要メンバーとして大成功に導き、文部大臣より感謝状を贈られたことは、今でも当会の誇りとなっています。また、平成十一年には文化財保護の多大な功績に対して文化庁長官から表彰されるなど、甲冑を中心とした武

家文化の研究保存に貢献された事例は枚挙にいとまがありません。

二十二年に会長職を白綾基之氏に引き継ぎご勇退されましたが、その後も最高顧問として当会を見守ってくださいました。

今われわれは偉大な指導者を失い、再び親しく教を請う術もありませんが、先生の理念をしっかりと護持し、会の発展に向けて一層励む所存であります。天上にあって、どうかいつまでもご遺族と当会の上にご加護を賜りますようお願い申し上げます。

藤本巖先生のご遺徳とご遺業に心から尊敬と感謝の誠を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(藤本巖氏(号鞍斎)は十月二十一日、亡くなられました。享年九十七歳)

## 桜田門外の変・首謀者

# 「高橋多一郎の刀」見つかる



高橋多一郎が奉納したとみられる日本刀の刀入れをする大沢都志夫さん(ときがわ町)

幕末の一八六〇年、幕府の大老・井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」。首謀者の一人で水戸藩士の高橋多一郎がその前年に神社に奉納したとみられる日本刀を、NPO法人「日本刀剣保存会」副理事長の大沢都志夫さん(ときがわ町)が入手した。研究者は「本物であれば多一郎の歴史を知る重要な手掛かりになる」と話している。

(井上真典)



柄に覆われている茎の部分。「高橋愛諸」「安政六年」と刻まれている

水戸藩主の側近だった高橋多一郎は、井伊直弼らによる「安政の大獄」で、攘夷派の同志らが弾圧されたことに憤激し、井伊暗殺を計画。攘夷派の薩摩藩士と挙兵するため大阪に潜伏中だった一八六〇年、江戸城の桜田門外で暗殺に成功したとの知らせを受けた。だが多一郎は間もなく幕府側に包囲され、自刃した。

日本刀の展示・販売店「しのぎ刀剣美術館」(ときがわ町)を営む大沢さんは今年七月、顧客から一振りりの日本刀を入手した。柄に覆われた茎と呼ばれる部分に、高橋多一郎の実名「高橋愛諸」と「安政六年」(一八五九年)と刻まれている。刃渡りは約七十四センチ。刀工の名はなかったが、日本刀剣保存会の会員五人の鑑定結果、会津藩の刀工・初代角元興と特定した。刀に「奉獻」などと書かれていることから一八五九年に神社に奉納されたものと推定しているが、どの神社かは確認できていない。

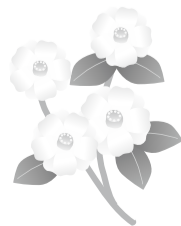
## ときがわの大沢さん入手 実名「愛諸」「安政六年」刻む

水戸藩の前藩主徳川齊昭(ときがわ)のころ、井伊直弼と対立して水戸での永蟄居(終身にわたる謹慎)を命じられており、茨城県立歴史館(水戸市)の歴史資料課長で学芸員の永井博さん(ときがわ)は「当時は多一郎が神頼みをすするくらい追い込まれ、何とかしなければという気持ちだったのだと思う」と話す。

この日本刀は同店に展示されており、一般の人も見学できる。入場無料。

問い合わせは、しのぎ刀剣美術館(電話0493(65)0282)へ。

当組合員・大沢都志夫さんが紹介された「東京新聞」さいたま中央版・平成26年10月2日と「高橋愛諸」の銘



イベント・レポート

「全国美術刀剣青年会」大会開く

また夏の日差しが残る九月二十六日、全国美術刀剣青年会の出張大会が静岡県熱海の大観荘にて執り行われた。

数日前までの予報では台風16・17号が関東を直撃する可能性もあったが、当日は天候に恵まれ、正会



盛況だった青年会の交換会

員・特別会員・客員合わせて四十四名の皆さまにご参加いただいた。午前十時、代表幹事である服部一隆氏の挨拶から競りに入り、午後は成り行きのお品と入札。会

は午後五時ごろまで続いた。ここ一、二年は各交換会の大会開催も多くなり、品物や出来高の不安もあったが、結果は通常の会の二倍以上となった。

当日は宿泊される方が多く、宴会も盛況のうちに閉会、翌日も晴天に恵まれ、恒例のゴルフコンペも行われた。

事故の影響による負債も、ここに来て完済のメドが立った青年会。相場の底値も抜け、ようやくここから！と意気込みを見せる大会だった。(大平将広)

「全国美術刀剣会」五十周年記念大会開く



50周年を迎えた全国美術刀剣会

爽やかな秋晴れの十月十六日、東京・白金台の八芳園白鳳館において全国美術刀剣会(全力会)の五十周年記念大会が開催されました。都心ながら緑深い庭園を備えた会場は、由緒ある会の記念行事にふさわしく、五十余名の参加者で重要美術品を含む多くの名品が盛況裏に取引されました。

東京国立近代美術館

「菱田春草展」と映画「天心」を見て

東京国立近代美術館の「菱田春草展」を見てきました。それとともに、同館で上映していた映画「天心」も拝見して、なるほど思ったことがあったので、書きます。「天心」によると、岡倉天心とフェノロサが狩野芳崖に出会ったことが、東京美術学校(後の東京藝術大学)設立の契機となったこと、美術学校の教官に任命された芳崖が、最後に名作「悲母観音」(重要文化財)を書き上げたこと。そして、美術学校時代の下村観山・横山大観・菱田春草・木村武山それぞれの個性も描かれている。



菱田春草

観山は幼少期より狩野芳崖に師事し、厳しい修業を続けていたエリート。大観は絵とは縁なく過ごしてきたが、美術学校第一期生となり、本格的に絵の修業を始める。春草は観山・大観らの一学年後輩だが、早くから注目されていた。さて、そこで菱田春草展なのだ

これが後の茨城県五浦における日本美術院絵画部の活動につながるのである。天心の別荘であった五浦で観山・大観・春草・武山の四人が並んで作画するのは、わずか一年。しかしながら、その一年間は、春草にとっては苦難の時でもあった。この期間に焦意を立てた映画「天心」は、岡倉天心と菱田春草の師弟愛を描いているが、もっと言えば、天心は舞台回しであり、春草こそが主人公と言えよう。

紀伊国屋 代表 松浦孝子 刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

「お刀女子」岩国に集合 県内外24人 製作工程など聞く 日本刀に興味を持った。昨年8月の瀬戸内市での開催に続き2回目。会場のカシワバラ・コーポレーション本社(岩国市山手町)会議室では、かまたさんや



永田さん(奥中央)と刀を使ったポーズを取る参加者

大阪歴史博物館

「お守り刀展覧会」×「二次元vs日本刀展」が開幕

大阪では昨年に続き恒例となった「お守り刀展覧会」が、十一月一日から大阪歴史博物館で始まる。

た。文部科学大臣賞を受賞した三上貞直刀匠の作品をはじめ、各刀匠入魂の一振が展示され、初日から多数の来場者で熱気あふれる展覧会となった。



「お守り刀展覧会」の懇親会風景

前号で報告があったように、明珠宗裕刀匠や川崎晶平刀匠、河内一平刀匠、月山貞伸刀匠ら次代を担う新進気鋭が上位に多数入賞したのは、同じ世代の小生としても大変うれしい。

刀剣ファンを作っていくきっかけになればいいと思う。そのほか、国広の重文、康継・輝広の重美など名刀も多数展示され、見所十分、充実の展覧会となっている。

催事情報

■八代市立博物館 未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 ☎0965-34-5555

もののふの美と心 ~八代城主・松井家の刀剣と刀装具~

肥後細川藩の筆頭家老で八代城を預かった松井家には、中世以来の名刀が多数伝えられています。その特徴は、実戦に適した「用の美」を備えたものが多いということです。また、刀身を収める刀装は、肥後金工による装飾金具を用いた肥後拵。茶人細川三斎の好みを伝える佻びた趣が、全国の刀剣ファンをうならせます。

本展示会は、一般財団法人松井文庫が所蔵する刀剣・刀装具の全貌を、初めて八代で紹介するものです。同時に、松井文庫設立30周年を記念して、秀吉や家康など天下人から拝領した松井家伝来の家宝、松井家と関わりの深い宮本武蔵ゆかりの品々も展示します。

会期：10月24日(金)~11月30日(日)

「もののふの美と心」出品一覧

Table with 2 columns: No. 名称 and 脇指 無銘 行光. Lists various items including portraits, tea caddies, and swords.

Table with 2 columns: No. 名称 and 脇指 無銘 行光. Lists items 43-46.

Table with 2 columns: No. 名称 and 脇指 無銘 行光. Lists items 47-52.

■永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1 ☎03-3941-0850

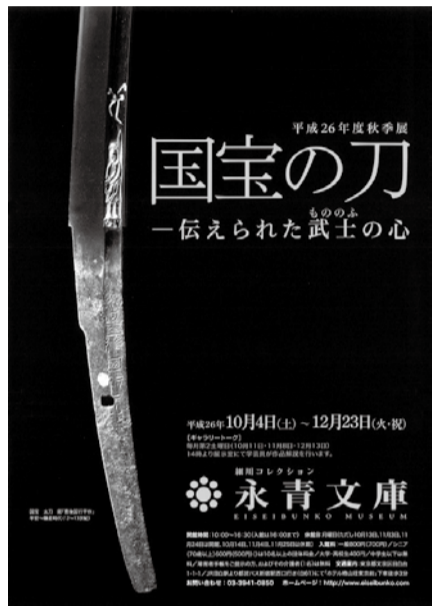
国宝の刀 — 伝えられた武士の心

近代の日本画や東洋美術のコレクターとして著名な細川家16代の細川護立(1883~1970)は、刀の目利き・収集でもよく知られています。秋季展では、護立が収集し、後に国宝に指定された4口の刀や太刀を中心に、細川家に伝来した刀剣と刀装具の名品を一堂に展示します。

〈主な展示作品〉

- 国宝 太刀 銘 豊後国行平作
国宝 短刀 銘 則重
国宝 刀 金象嵌銘 光忠 光徳(花押) 生駒讃岐守所持
国宝 短刀 無銘 正宗(名物庖丁 正宗)
刀 銘 濃州関住兼定作
黒塗研出絞腰刻鞘打刀拵(歌仙拵)
重要文化財 昆沙門天図 鐔 銘 城州伏見住金家

重要文化財 伝林又七作 桜に破扇 図 鐔 無銘
会期：10月4日(土)~12月23日(祝・火)



■一般社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム

日本の刃物 — なぜ日本の刃物はよく切れるのか —

日時：12月6日(土)13:30~16:50
会場：東京工業大学大岡山キャンパス 南2号館223講義室
目黒区大岡山2-12-1 東急大井町線または目黒線大岡山駅下車
演題：
・刃物鍛冶技術のありようの事例 香月節子(鍛冶研究者)
・刃物の切れ味は何によるものか

日野浦 司(三条の鍛冶職人)
・研ぎという技術 井上 武(銀座菊秀店主)
参加費：
講演会2,000円、懇親会3,500円
申込先：
香月節子(フォーラム運営委員)
k-setsu@k5.dion.ne.jp
FAX：03-5382-1512



織田信長が長篠の戦での功を賞して奥平信昌に与えた一文字の太刀や、日本三名槍の一つとして著名な「蜻蛉切」。静岡沼津の実業家・矢部利雄氏(一九〇五~九六)が一世代で築き上げたコレクションを、この度初公開いたします。

国宝 太刀 銘一
重文 太刀 銘真長
重美 太刀 銘国宗
重美 太刀 銘貞(次)
太刀 銘景則
太刀 銘備州長船近景
太刀 銘了戒
短刀 銘油小路忠家造/延文三年仲春二

「沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵」や刀装具約二十点が出品されます。戦国武将をテーマにした人気ゲームの影響から、「蜻蛉切」の名は若年層にも認知度が高いようですが、個人コレクションとなり長らく公開されることなかったためか、「蜻蛉切」は近年の書籍で行方不明とされていることがあるようです。ゲームから刀に興味を持った方たちにも、ぜひ実物を見てもらいたいところです。

また、珍しい山城国・油小路派の短刀や、沈金で装飾された太刀拵も必見です。刀装具は彦根藩井伊家旧蔵のものも多く、今回ボスターでも紹介している「おださ」鐔は、名物「織田左文字」に付属していたもの。織田信長から次男の信雄、井伊直政と伝わり、十四代彦根藩主井伊直亮が自ら「おださ」と書いてこれを鐔に透かし彫りさせ、この刀に付けたといわれます。

刀剣から始まった矢部氏のコレクションは、その後、陶芸や漆工などへジャンルを広げていきました。この機会に、刀剣以外の作品も楽しんでいただければと思います。中でも根来と呼ばれる漆器の一

特別寄稿

天下三名槍の一つ、本多忠勝愛用の「蜻蛉切」がお目見え

公益財団法人佐野美術館 学芸員 志田 理子

日本刀の優れた展示会企画で知られる佐野美術館でこの度「矢部コレクション」が初公開される。期待の展示会に先立ち、担当する同館学芸員・志田理子さんに、矢部利雄氏とそのコレクションの魅力について紹介していただいた。

群は、力強さと美しさを兼ね備えた品が揃います。寺院で使用する実用の品として誕生した朱色の器が、長年使用される中ですり減り、下地の黒漆や木地が顔を出して見事な景色を見せています。矢部氏は乗り物酔いがひどく、列車で東京や大阪へ出向いた回数も数えるほど。ほとんど沼津から出ることもなく、この充実したコレクションを成したそうです。日刀保の静岡支部長や東海支部長、淡交会沼津支部長などを務めながら、地元コレクターと交流を深める一方、沼津御用邸や千本松原の別荘を訪れる中央の文化人とも親しく交わり、自らの美意識を磨きました。フットワークも軽く、愛用の自転車に乗って佐野美術館まで来てくださったこともあったとか。

現在までこのコレクションを散逸させることなく守り続けておられるご家族からご許可をいただき、展示会開催の運びとなりました。さまざまな人との縁を得、もとの縁を結んで成されたコレクションを、ぜひお楽しみください。

※「ひとの縁は、ものの縁」初公開の矢部コレクションは、来年一月九日(金)~二月十五日(日)、佐野美術館にて開催。〒411-0808 静岡県三島市中田町一四三 ☎055-9757-278